

## 蒼天（稲葉 晃司 議員）

一般会計決算歳入の市税は214億円と、平成30年度を若干上まわり歳入全体に占める割合は40%と高い水準を保つことができました。自主財源は55%と平成30年度を若干下回ったものの、依存財源に頼りがちな地方自治財政にとっては、高い水準であったと考えています。

歳出では、市民の要望に対して幅広い予算執行ができたと考えています。加えて、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率はどれも問題のない数値でありました。また、財政力指数は0.917であり、限りなく1に近づき地方交付税不交付団体をもうかがえる状況であり、この点においても財政健全化は保たれていると考えられます。

以上のことから、令和元年度一般会計決算を一言で表すと、「高い水準の自主財源を維持し、財政健全化に配慮しつつも幅広い市民の要望に対応できた決算であった。」と言えると思います。

## 芙蓉（野本 貴之 議員）

令和元年度は消費税増税直前の駆け込み需要と直後の消費の落ち込み、年度末のコロナ禍の拡大など乱降下の激しい年でした。

その中で、会派「芙蓉」としては決算を認定すべきとしました。特に、財政規律が守られた運営かどうか、財政調整基金の積み立てや利活用等を見ています。

また、歳出は職員採用と人件費の考え方、首都圏シティセールス事業の費用対効果、産前産後から乳幼児期の家庭児童相談や気になる子どもの把握、有害鳥獣被害防止対策事業と捕獲した鳥獣の利活用、インバウンド向け旅行商品開発支援、企業誘致・留置や支援、学校や家庭と連携し不安な気持ちに寄り添う教育、市立体育館等スポーツ施設の運営や人件費の改善等、積極的な取組を促しています。

## 政経会※（辻村 岳瑠 議員）

※9月定例会時の会派名で掲載しています。

市民の要望に応え、かつ税金が無駄なく使われており、その費用対効果について評価いたしました。その中でも、以下2項目に注目しました。

①光ファイバ整備事業。市内全域の整備がコロナ禍で整ったということは、今後さまざまな施策を優位に進めることになり、大いに期待できる事業でした。

②小・中学校エアコン整備事業。特別教室も含む全教室にエアコンが整備されました。「日本一短い夏休み」と言われましたが、夏の授業は、児童生徒の学習を支援できる整備が整っていたからこそできたことでありました。また、同時に年間学習過程の過密日程を防いだ点も評価しました。

市当局はコロナ禍ではありますが、今後も市民生活向上のため自信を持って頑張っていたきたいです。

## 会派解散と結成のお知らせ

10月27日、「政経会（代表：村瀬<sup>しせい</sup> 旬議員）」が解散し、新しく「至誠（代表：村瀬<sup>しせい</sup> 旬議員）」が結成されました。なお、「至誠」所属議員は、村瀬<sup>しせい</sup> 旬議員、鈴木弘議員、諏訪部孝敏議員、細沢覚議員、辻村岳瑠議員です。

## 会派「至誠」からのメッセージ

会派名の「至誠」とは、「感謝の『誠』を先人に捧げ、政治に『至』る」の意。誰ひとり取り残さない住民福祉の向上、市民の人生の幸せに貢献します。

